

多古町歴史講座 「千田荘と千葉氏を探る」 開催要項

多古町は歴史と伝統文化に溢れる町です。私たちが自ら住む町の歴史を知ることとはとても大切なことで、先人から受け継いだものを後世に伝える力が養われるとともに、郷土を愛する心の育成につながります。

このたび、町教育委員会では平安時代末期から戦国時代にかけて房総半島北部一帯を支配した千葉氏と、その中心として繁栄した千田荘にまつわる歴史を町民の皆様に広く知っていただくため、下記のとおり全5回のシリーズで多古町歴史講座を開催します。

※入場は無料です。当日の参加も可能ですが、資料を用意する関係から事前に、多古町コミュニティプラザ（☎76-7811）までお申し込みください。

記

◆第1回講座

- 1) 日 時 平成29年6月17日（土）午後2時～
- 2) 場 所 多古町コミュニティプラザ文化ホール
- 3) テーマ 下総国（千葉県）の首都として栄えた千田荘
～歴史文化の宝庫「千田荘」の魅力～
- 4) 講 師 千葉氏研究家 鈴木 佐 先生
千葉氏サミット実行委員会事務局長 鈴木 雅一 先生
- 5) 内 容 多古町の前身であり千葉県の中心を成していた「千田荘」は歴史文化の宝庫である。その魅力について触れ、千田荘と千葉氏の一族が全国各地に築いた都市とのつながりを語る。

◆第2回講座

- 1) 日 時 平成29年8月20日（日）午後2時～
- 2) 場 所 多古町コミュニティプラザ文化ホール
- 3) テーマ 平家物語の異本「源平闘諍録」から見た千田荘と原氏
～千葉氏をしのぐ地域権力となった原氏～
- 4) 講 師 元佐倉市史編纂委員 外山 信司 先生
- 5) 内 容 平安末期、千田荘を地盤とする下総藤原氏は、平家と姻戚関係を結び、下総の国司を歴任した有力者であった。平清盛の義弟・藤原親政は、源頼朝と千葉常胤を倒すため兵を挙げたが、その軍は原氏などの千田荘の武士たちからなっていた。親政は敗れ、千田荘は千葉氏の支配下となり、原氏はその家臣となるが、戦国期には千葉氏をしのぐ勢力にまで成長を遂げる。国文学的視野を含め、千田荘と原氏について考える。

◆第3回講座

- 1) 日 時 平成29年10月14日(土)午後2時～
- 2) 場 所 多古町コミュニティプラザ文化ホール
- 3) テーマ 千田荘の仏像
～妙見菩薩と日蓮宗祖師像の数々～
- 4) 講 師 宝聚寺住職／山武市・富津市文化財審議委員 濱名徳順 先生
- 5) 内 容 多古町近隣の地域は胤貞流千葉氏の所領を拠点に日蓮宗中山門流の教線が伸張し、独自の仏教文化が展開した。千葉氏の守護神妙見菩薩像をはじめ、当地域の仏像を画像で紹介しながら、その造像の背景を追う。

◆第4回講座

- 1) 日 時 平成29年11月25日(土)午後2時～
- 2) 場 所 多古町コミュニティプラザ文化ホール
- 3) テーマ 南北朝期の下総国動乱
～千田荘を中心に～
- 4) 講 師 元千葉大学文学部非常勤講師 遠山 成一 先生
- 5) 内 容 全国的に惣領争いが激化し、内乱状態を呈した南北朝初期、ここ千田荘においても千葉氏宗家を継いだ千葉貞胤と、千田荘をはじめ八幡荘、九州の小城を支配した千田胤貞の両名が、在地の武士を巻き込んで激しい内乱を繰り広げていた。内乱は「当国乱」と文書に記されたように、千田荘にとどまらず下総一国を舞台に展開された。「金沢文庫文書」に残された史料をもとに千田荘内乱を逐次検証していく。

◆第5回講座

- 1) 日 時 平成30年2月3日(土)午後2時～
- 2) 場 所 多古町コミュニティプラザ文化ホール
- 3) テーマ 千田荘と金沢称名寺
～六浦津と下総～
- 4) 講 師 神奈川県立金沢文庫学芸課長 西岡 芳文 先生
- 5) 内 容 鎌倉幕府の2大宗教「禅宗と律宗」。その中でも横浜市金沢区にある金沢文庫・称名寺は鎌倉幕府の歴史文化遺産の宝庫である。その律宗寺院を経済的にも人材的にも支えたのが千田荘であり東禅寺であった。この東禅寺を中心に律宗僧侶の教場が開かれ、付近の千葉一族も東禅寺に帰依していた。鎌倉及び金沢文庫から見た千田荘について語る。

◎主催 多古町教育委員会 (担当：生涯学習課)